

一般入試後期D日程

国語

I

出典 『味と香りの話』（栗原堅三）岩波書店1998年

問題文は、動物がどのように香りを利用するかということを中心に書かれた文章です。難しい用語がなかったこともあり、受験生には取り組みやすい内容であったと思います。

問1 【漢字の書き取り問題】（解答番号は①～⑥）

a 喜悅 b 祭壇 c 含量 d 妙香 e 連綿 f 促進 がそれぞれ正答です。「促進」以外は不出来でした。文脈で判断することが大事です。完全正答率は0%でした。

問2 【空欄補充】（解答番号は⑦・⑧）

空欄Ⅰを含む文の冒頭にある「このように」は直前の段落に「匂いか色で昆虫を引きつける」とあるので、空欄Ⅰの正答は①の「誘惑的」です。空欄Ⅱは直前の文に注目すれば、正答は⑤の「先天的」になります。完全正答率は70%でした。

問3 【空欄補充】（解答番号は⑨）

空欄アの2行前にある「香りを識別できる」という箇所がヒントです。正答は⑥、正答率は75%でした。

問4 【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑩）

傍線部Aの直後では、成分の分量によって花の匂いが決定されるわけではないことが、ラベンダーを例に述べられています。これを踏まえれば、正答は②です。正答率は82%でした。

問5 【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑪）

「調香師」の説明がなされている箇所と傍線部Bの前文を押さえる必要があります。正答は⑥です。②・③を選択する誤答も目立ちましたが、②は「調香師の嗅覚の感度に左右される」③「香りの質」などについては本文に書かれていません。正答率は43%でした。

問6 【語の意味と文脈把握に関する問題】（解答番号は⑫）

正答は②です。本文内容と照合すれば難しくはありません。正答率48%でした。

問7 【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

正答は①です。傍線部Dはヒトのことについて書いているので、まずはヒトにおける匂いの役割について書かれている箇所を押さえる必要があります。正答率は80%でした。

問8 【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑭）

傍線部Eの前文から、嗅覚と視覚との違いを読み取ることができます。正答は①です。③から⑥は植物のことも含めて書かれているので、不正解です。②についてもヒトは花の匂いで危険を回避していないので不正解です。正答率は57%でした。

問9 【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑮）

正答は④です。傍線部Eを含む段落を読めば、自ずと正答を導くことができます。正答率は93%でした。

問10【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は16）

最終段落を押さえれば、正答は①だと分かります。正答率は55%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は17・18）

正答は①・②です。他の選択肢に含まれる本文の内容に合致しない箇所を示せば、③は「一般的にいわれている」、④は「香道が伝来した室町時代」、⑤は「ヒトを魅了するもの」、⑥は「一般的な日本人が楽しむ香道」、⑦は「豊かな生活を送るために」、⑧は「単にあやしい魅力を醸し出す一つの道具」となります。完全正答率は50%でした。

II

出典「西洋音楽史—「クラシック」の黄昏」（岡田暁生）中央公論新社2005年

いわゆるクラシック音楽を通史的に概説した書物です。論旨や主張自体は非常に明快ですが、あまり知られていない中世音楽をテーマとした部分から出題したため、読解に苦勞した受験生が多かったようです。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は19～25）

a 露見（顕） b 漂 c 記譜 d 威嚇 e 甘美 f 三位一体 g 彼岸 がそれぞれ正答です。「彼岸」を「悲願」、「記譜」を「寄付」「棋譜」、「三位一体」を「三身一体」と書くなどの誤答が見受けられました。cは特殊な言葉ですが、本文に「楽譜として記さずとも」等の表現があるため、前後の文脈で正答を書くことは可能でしょう。全問正答者はいませんでした。

問2【空欄補充】（解答番号は26）

正答は②です。④と⑧には「逆」という語が含まれており、思わず正答として選んでしまいそうになりますが、それぞれ特有の意味があるため誤りです。正答率は52%でした。

問3【空欄補充】（解答番号は27）

正答は③です。空欄IIの直前の「人里離れた」が最大のヒントで、直後の「過去のもの」となり、…権力を誇示するようになる」との対比を理解することが重要です。対比されていますから、④の「強権的」は誤答です。あるいは、中世の宗教観に基づく音楽理論との関連でまさに「禁欲的」という表現が本文10頁の後ろから3行目にあることもヒントとなるでしょう。正答率は55%でした。

問4【空欄補充】（解答番号は28）

正答は⑤です。正答率91%とほとんどの受験生が正答でした。

問5【空欄補充】（解答番号は29）

正答は③です。空欄がある段落において「ペロタン」以前と以降とで何が変わったのかを読解することが重要です。空欄Iの次の行にある「これは音楽が言葉から自立していくプロセスの、非常に重要な第一段階…」が最大のヒントです。④は正答とするにはあまりにも漠然としすぎています。正答率は32%でした。

問6【空欄補充】（解答番号は **30**）

正答は②です。音楽と数学との関係が述べられている、それまでの箇所や、空欄 **ウ** の直前の文言から正答を得るのは必ずしも難しくはないはずです。誤答として最も多かったのは④ですが、「だけで十分」とまでは言えません。正答率は9%にとどまりました。

問7【文脈把握による内容理解】（解答番号は **31**）

正答は⑨です。やや古めかしいですが、「知られ（てい）るように」「指摘されるように」などの言葉とともに現在でも用いる定型表現です。正答率は9%にとどまりました。

問8【文脈把握による内容理解】（解答番号は **32**）

正答は⑥です。これも古めかしい表現ですが、現在でもしばしば「逆接」の接続詞として（ちなみに段落冒頭では「ところで」等の話題転換としても）使用されます。前後の文意を理解していれば正答を得ることはできるでしょう。正答率は7%と芳しくありませんでした。

問9【文脈把握による内容理解】（解答番号は **33**）

正答は⑤です。「このような音楽観」と問題文にある以上、それより前の内容で、かつ筆者が特に強調したい内容が正答になります。正答率は50%でした。

問10【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **34**）

①が正答です。「オルガナム芸術」という文言は直接的には書かれていませんが、音楽が芸術の一つであること、かつそれが中世という時代においてどのような展開したのかについて述べている箇所であるため、他の選択肢は不適当になります。正答率は65%でした。

問11【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **35**）

正答は⑦です。③を選んだ受験生が最も多かったようですが、当該箇所では単に「レオナンとペロタン」の音楽の違いだけが述べられているわけではなく、「ゴシック」建築に象徴される、彼らが活躍した時代についても論じられています。正答率は25%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は **36**・**37**）

正答は①と⑥です。②は「飛躍的に発展させた」、③は「シェーンベルク」と「バルトーク」の叙述、④は「平凡」、⑤はボエティウスに関する叙述、⑦は「主人公」、⑧はレオナンとペロタンの活躍した時期についての内容等がそれぞれ本文の内容に合致しません。細部までよく読みましょう。完答問題のため、正答率は9%にとどまりました。